



上智大学における 環境リテラシー教育 —現代GPの取組と目標—

鬼頭 宏（上智大学経済学部）
E-mail: gpenvilit@sophia.ac.jp
HESDフォーラム2007／岩手大学／2007/12/22

1

上智大学の取組



「グローバル社会における環境リテラシー教育」
—持続可能なグローバル社会の主体形成をめざして—

2

1 上智の精神と取組の目標

- ・ この取組の目標は、「全学共通教育」において「グローバル環境リテラシー(GEL)教育」を構築することにある。
- ・ 本学の建学の精神は、「キリスト教ヒューマニズム」であり、“Men and women for others, with others”を教育理念とする。
- ・ 21世紀が直面する地球環境問題に取り組むことは、まさに「他者のため、社会のため、世界のため」に役立てていく人間をめざす教育理念を実践することに他ならない。

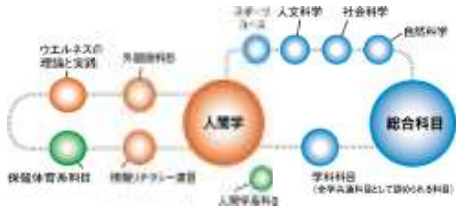
3

2 全学共通教育の目的

- ・ すべての学生が学ぶことを求める全学共通科目は、本学の教育理念である「キリスト教ヒューマニズム」を根幹とする。
- ・ 確固とした価値観を形成し、豊かな人間性を育むことを目的としている。

4

3 現行の全学共通教育の構成



図内の●は全学生共通の必修科目
 ●は全学生共通の選択必修科目
 ●は全学生共通の選択科目

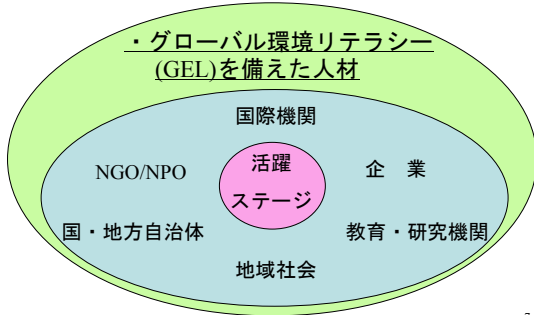
5

4 環境リテラシー：新たな教養

- ・ グローバル化した現代世界を主体的に担っていく人間にとって、地球環境を正しく理解することは、必要不可欠な教養である。
- ・ 人間以外の生物との共生をも保ちながら、持続可能な社会を形成する主体を養成することが、大学にとって重要な使命になった。この取組ではすべての学生を対象にする全学共通教育に体系的な地球環境学科目を設置する。

6

5 養成する人材



7

6 取組の概要

- 1.体系的なグローバル環境リテラシー(GEL)の構築
- 2.各学部・学科の専門教育、大学院教育との連携
- 3.体験型学習の導入
- 4.エコキャンパスの実現

8

1. 体系的なグローバル環境リテラシー教育の構築

- 人間学、ウエルネス、国際理解（語学）、情報リテラシーと並ぶ全学共通教育の柱の一つとして充実を図る。
- 全学共通科目として開講されている地球環境関連科目を体系化する。

9

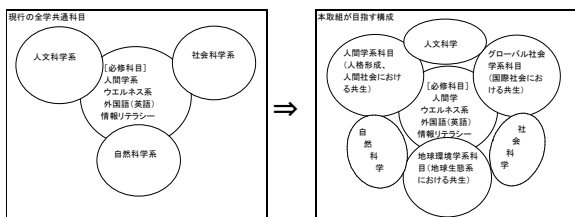
全学共通科目における環境関係科目 (2006年度)

科目群	分類 ¹⁾	科目名	単位	学期	授業回数 (15分授業)	受講人数	定員	備考	
人間学系科目	人間と生命	環境思想 ¹⁾	2	秋	—	—	—		
		環境倫理 ¹⁾	2	春	13	1100	77	—	
		環境倫理Ⅱ ¹⁾	2	春	13	1100	21	—	
		自然観の実践 ¹⁾	2	春	12	1100	145	150	
		東洋の自然観 ¹⁾	2	春	12	1100	187	150	
総合科目 ¹⁾	人間	環境と人間 ¹⁾	2	春	—	—	—		
		環境と人間Ⅱ ¹⁾	2	春	13	910	39	100	輪講、2～3年に1度開講
		地球環境と科学技術 ¹⁾	2	春	13	12111	273	300	輪講、SOC専修・実務講座(定員30) ⁴⁾
		地球環境と科学技術Ⅱ ¹⁾	2	春	12	12111	187	300	輪講、SOC専修・実務講座(定員30) ⁴⁾
		環境と生物 ¹⁾	2	春	13	610	205	—	輪講、同年開講
	環境	環境と生物Ⅱ ¹⁾	2	春	13	610	118	—	輪講、同年開講
		地球環境学Ⅰ ¹⁾	2	春	13	12(6)	254	300	輪講、SOC専修・実務講座(定員30) ⁴⁾
		地球環境学Ⅱ ¹⁾	2	春	12	12(7)	182	300	輪講、SOC専修・実務講座(定員30) ⁴⁾
		地球環境学Ⅲ ¹⁾	2	春	13	13(8)	109	150	輪講、UF海外講座、SOC専修・実務講座(定員30) ⁴⁾
		地球環境学Ⅳ ¹⁾	2	春	12	12(10)	114	120	輪講、UF海外講座、SOC専修・実務講座(定員30) ⁴⁾
自然科学	生命科学	生物学 ¹⁾	2	春	13	1100	9	—	
		環境生物学 ¹⁾	2	春	13	1100	22	—	
学芸科目 ¹⁾	法学	環境法 ¹⁾	2	春	13	1100	168	—	
		環境法Ⅱ ¹⁾	2	春	14	1100	75	—	
		環境法Ⅲ ¹⁾	2	春	14	1100	—	—	
		環境倫理 ¹⁾	2	春	13	1100	78	—	
国際教養	環境科学 ¹⁾	環境科学Ⅰ ¹⁾	2	秋	1100	21	—		
		環境科学Ⅱ ¹⁾	2	秋	1100	20	—		

注 1) 履修科目
2) 専門科目で全学共通科目として履修することができる科目
3) 履修上の分類
4) 原簿費またはコーディネーター
5) 専門科目としての履修を希望
6) SOC: 公開学習センターが開講する社会人対象とした科目に指定されている。

10

全学共通科目の構成（イメージ）



11

(2) 専門教育・大学院との連携

本学では法学部地球環境法学科、大学院地球環境学研究科ほか各学部・学科で行っている専門教育としての環境教育と連携を図りながら、全学生を対象に学術の基礎教養としての環境リテラシー教育の体制を整える。



12

(3) 体験型学習の導入

- ボランティア活動、インターンシップなどの体験型学習を導入し、その参加を通じ、地域社会及び開発途上国での社会貢献できる人材の養成をめざす。



(例) 秦野キャンパスの活用と神奈川県秦野市との共同活動を計画。

13

(4) エコ・キャンパスの実現

- 教職員、学生が一体となって実施する学内環境活動との連携を図り、エコ・キャンパスの実現を目指す。

例)大学周辺地域における活動



「お掃除ボランティア」



「桜プロジェクト」

14

7 課題

- 環境関連科目のGLE科目への取り込み。
- 全学共通教育の決定機関である全学共通教育委員会との連携：全学共通教育全体の構成に関わる。
- 教員（専任・非常勤）の採用は各学部・学科で決定される。
- 取組終了後の維持。



15